

奨励賞

まよなかのたんじょうかい

汐入小学校 一年 水落 菜月

やなぎだんせい、こんにちは。やなぎだんせいはこのほんのだいめいをみて、どのようなたんじょうかいをそうぞうしますか。わたしはまよなかにやるなんてきつとゆめのくにのたのしいおはなしだろうとそうぞうしました。

ところが、このほんは、たんじょうびなのにおかさんがなかなかえってこなかったり、たおれているひとがでてきたりと、かなしいことがたくさんつづくおはなしでした。

そんななかで、たんじょうびをむかえたさきちゃんも、さきちゃんのおかあさんもがんばれたのは、ふたりのこ

ころがどこかでひとつにつながっていたからだとかんじました。

おかあさんが知らないひとをたずけたのは、おとうさんがびょうきでくるしんでいたことをおもいだしたからだとおもいます。わたしも、あるひこうえんで、キッズけいたいをひろいました。こうばんにとどけにいくと、ならいごとはちこくです。ママは、

「このままおいていいこうか。」

と、いったけど、わたしとあねはとどけにいきたいといいました。なぜなら、そのこのまっっているかおがたまにうかんだからです。

「こうばんにとどけたら、おまわりさんやそのこのママがとってもよろこんでくれて、わたしはこころがちょっとあたたかくなりました。」

あまりないとおもっただけ、もし、たおれているひとが

いたら、わたしもたすけたいとおもいます。とてもわくでドキドキするけど、せめてこえをかけられたらいいなどおもいます。なぜなら、いのちはたからものだとおもっからです。わたしの、いちばんのたからものは、かぞくともだちです。ぜんぶとつてもたいせつなものだから、なくなつてほしくないとおもっからです。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

水落さんはまだ一年生なのに、困っている人の気持ちをほんとうによくわかる子なんですね。

絵本の中のお母さんは、お父さんが病気で、その世話をするが大変ですが、それでも外で倒れている人を見ると、自分は忙しいのに、通り過ぎることができなくて助けてあげる。知らない人でも助けないではいられなかったお母さんの気持ちについて、水落さんは、お父さんの看病をすることで病気で苦しむつらさを知っ

ていたからだと推測していますね。そのようにお母さんの気持ちで想像できるというのは、水落さんがすばらしい感性を持っているからだと思います。

そのように自分以外の人の感情や思いを想像する力というものは、幼いころからいろいろな絵本や物語をたくさん読んでもらったり、自分で読んだりするのを続けることで育ってくるものです。水落さんも、きつとお母さんやお父さんにたくさん絵本を読んでもらってきたのでしょう。

しかも、人の気持ちを想像できる人は、困っている人のために、何かをしてあげようという気持ちを、ただ持つだけでなく、行動で示すようになるのです。水落さんは公園でキッズけいいたいを持ったとき、失くした子の困っている顔が頭に浮かんだと書いています。感動しました。